

FOMC声明(6月12・13日開催分)

- 5月の連邦公開市場委員会(FOMC)以降に入手した情報は、**労働市場が引き締め続け、経済活動が堅調な速度(at a solid rate)で拡大していることを示している**。雇用の伸びは概してここ数カ月堅調で、失業率は低下した。最近のデータは家計支出の伸びが上向き(has picked up)、企業の設備投資は引き続き堅調に伸びたことを示唆している。前年同月比で見ると、**全体のインフレ率と食品やエネルギー以外のインフレ率はともに2%に近づいた**。長期的なインフレ期待の指標は、総じてあまり変わっていない。
- **さらなる緩やかなフェデラルファンド(FF)金利の目標誘導レンジの引き上げが、経済活動の持続的な拡大、力強い労働市場の状況、中期的に委員会の対称的な目標である2%に近いインフレ率と整合すると予想する**(The Committee expects that further gradual increases in the target range for the federal funds rate will be consistent with sustained expansion of economic activity, strong labor market conditions, and inflation near the Committee's symmetric 2 percent objective over the medium term)。経済見通しへのリスクはおおむね均衡しているとみられる。
- 労働市場の状況とインフレ率の実績と見通しを考慮して、委員会は**フェデラルファンド(FF)金利の目標誘導レンジを1.75—2.00%に引き上げることを決定した**。金融政策の運営姿勢は引き続き緩和的で、それによって力強い労働市場の状況と、2%のインフレへの持続的な回帰(sustained return)を支える。
- FF金利の目標誘導レンジの将来的な調整の時期と規模を決めるに当たり、委員会は最大雇用の目標と対称的な2%のインフレ目標との比較で経済状況の実績と見通しを評価する。この評価は、労働市場の状況に関する指標、インフレ圧力やインフレ期待の指標、金融動向や国際情勢の解釈を含む幅広い情報を考慮する。
- 政策決定の投票で賛成したのは、ジェローム・パウエル委員長、ウィリアム・ダドリー副委員長、トーマス・バーキン、ラファエル・ポスティック、ラエル・ブレイナード、ロレッタ・メスター、ランダル・クオールズ、ジョン・ウィリアムズの各委員。

FRB関係者の金利・経済見通し

【18年の利上げ回数】

5回 1人(1人)

4回 7人(6人)

3回 5人(6人)

2回 2人(0人)

1回 0人(2人)

【FF金利中央値】

18年 2.375%(2.125%)

19年 3.125%(2.875%)

20年 3.375%(3.375%)

長期 2.875%(2.875%)

【FF金利の幅】

18年 1.9~2.6%(1.6~2.6%)

19年 1.9~3.6%(1.6~3.9%)

20年 1.9~4.1%(1.6~4.9%)

長期 2.3~3.5%(3.5~3.5%)

【PCE中央値】

18年 2.1%(1.9%)

19年 2.1%(2.0%)

20年 2.1%(2.1%)

長期 2.0%(2.0%)

【GDP伸び率】

18年 2.8%(2.7%)

19年 2.4%(2.4%)

20年 2.0%(2.0%)

長期 1.8%(1.8%)

【失業率】

18年 3.6%(3.8%)

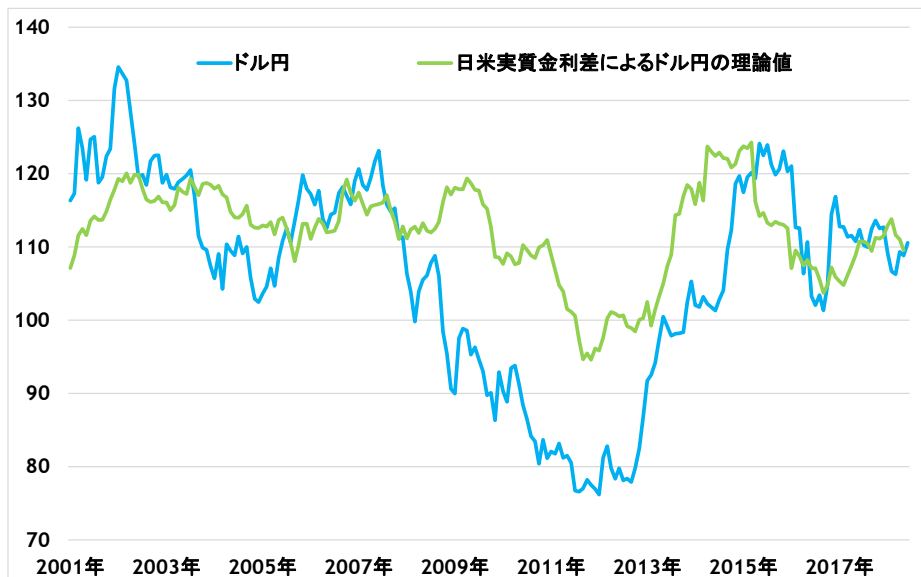
19年 3.5%(3.6%)

20年 3.5%(3.6%)

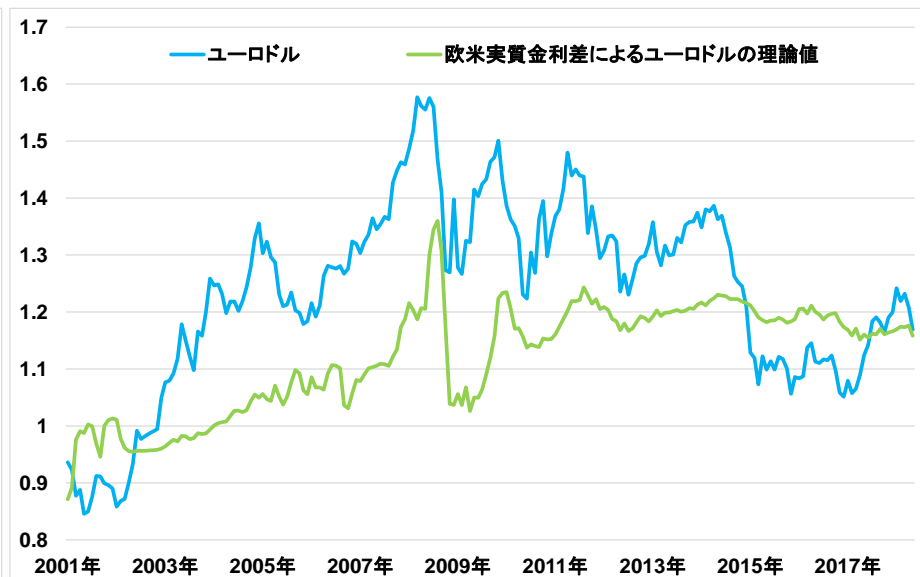
長期 4.5%(4.5%)

ドル円とユーロドルの実勢値と理論値の推移

ドル円の実勢値と実質金利差による理論値の推移

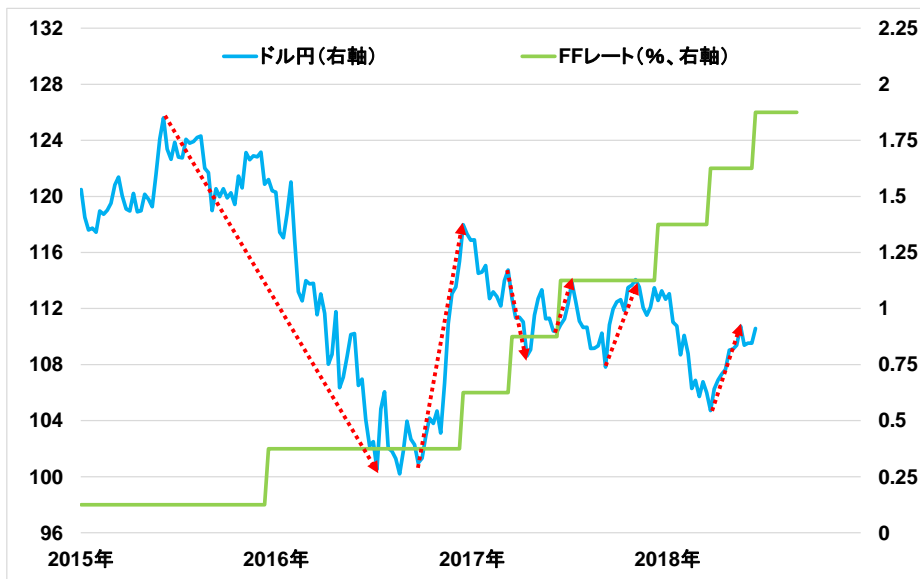


ユーロドルの実勢値と実質金利差による理論値の推移



米利上げ後のドル円とユーロドルの推移

ドル円の推移



ユーロドルの推移

